

でんち

一般電池工業会
社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <https://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <https://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 清水義正

2022年10月号

第104回 二次電池第2部会を開催

2022年9月9日（金）、一般社団法人電池工業会は第104回二次電池第2部会をWeb会議で開催した。冒頭でBAJ競争法コンプライアンス・ルールを遵守することを確認したのち、黒葛原部会長、清水専務理事より挨拶があった。続いて各委員会の代表者から、2022年度のこれまでの活動報告がなされた。

1. 部会長挨拶

- ・WEB会議中心の委員会活動になっていますが、計画通りの活動推進に対して、委員ならびに事務局に感謝している。
- ・蓄電池産業戦略検討官民協議会の最終報告会が開催され、経産省のホームページに蓄電池産業戦略が掲載されている。普及促進委員会からの提言が反映されており、BAJの役割が明確になったと感じている。役割を果たすための取り組みが必要になるので、皆様の協力と活動をお願いしたい。

2. 専務理事挨拶

- ・蓄電池産業戦略検討官民協議会で戦略方向が示され実行フェーズに入り、BAJの責務を果たして成果をだす必要がありますので、今後しっかり連携して対応していき、コンプライアンスを遵守しながら、国家戦略にどう結び付けていくかを肝に銘じて、しっかりやっていきたい。

- ・9月2日、正会員幹部、賛助会員会社が参加のもと、正賛合同会議を開催した。久しぶりに顔を合わせる会議に出席頂き、有意義な内容となった。

3. 各委員会報告

- 各委員会より資料に沿って活動内容の説明がなされた。

◆技術委員会

1) 各分科会報告

<リチウム二次分科会>

- ・IEC62133-2(ポータブルリチウム二次安全) 改正に対応。

<LIB 安全性技術 WG>

- ・JARI 電池標準化 WG の体制変更により、電池セル SWG が新設され、FISC 代替試験はこの SWG に移管された。

<据置 LIB 分科会>

- ・JIS C8715-2 改正原案の素案を日本規格協会と作成中。IEC 62619 ed2(産業用 Li 二次電池安全)、IEC62620(産業用 Li 二次電池性能)、IEC/TC18(Maritime battery requirements)、IEC62933-5-3(TC120 WG5)の規格に対応。

<非駆動用車載 LIB 分科会>

- ・IEC63118 ed1 CDV(非駆動用車載 LIB 性能)に対応。

<ニカド・ニッケル水素分科会>

- ・IEC61951-1 ed4 AMD(Ni-Cd 性能)CDV、IEC61951-2 ed4 AMD(Ni-MH)FDIS、JISC8705/8708 に対応。

<産業用ニッケル水素分科会>

- ・IEC63115-1(産業用 Ni-MH 性能) ed1 AMD、JIS C 63115-2(産業用 Ni-MH 安全) に対応。

<PSE-WG>

- ・電気用品安全法の技術基準の解釈別表第九の廃止対応として、製安課と廃止後の猶予期間について打合せ実施し、電池メーカーとしての要望を伝えた。

<蓄電システム WG>

- ・国交省の「建築設備計画基準」及び「建築設備設計基準」を確認。
- ・消防庁予防課より、4,800Ah・セル見直しに関する「JIS に適合する蓄電池の安全性検証実験」について意見があり対応。

<環境規格分科会>

- ・IEC63218(二次電池環境)、IEC60086-6(一次電池環境)の統合について、一次電池の TC35 側から情報なし。

<リユース規格分科会>

- ・IEC63338 ed1 2nd CD(二次電池用リユース一般ガイダンス規格)に対応。また、TC21/JWG69

で行われている、IEC63330(駆動用リユース製品規格)、TC120 で行われている IEC62933-5-3 2nd CD(ESS リユース電池安全)へも対応。

- ・TC120-JARI-BAJ 連携会議を開始/分担・境界領域について都度検討する。

<CFP 規格分科会>

- ・IEC63369(産業用 LIB の CFP の計算方法は、Part1 (一般要求) と Part2 (適用) に分かれた。まずは Part1 の CD2 が回付され、コメント期限 10/7 に向け JP コメント審議中。

2) 関連委員会の対応

<108 委員会対応>

- ・IEC62368-1 ed4(オーディオ・ビデオ、情報・通信技術機器安全)規格対応。

<BASC 主催 ISO/TC333 国内委員会対応>

- ・10/12,13 ISO/TC333 総会開催に向けて、国内委員会を 9/21 に実施する。
- ・WG6 のドイツ提案ドラフトは AW112467-1 と統合。
- ・WG7(塩化リチウム分析)が設立された。

3) 技術委員会審議事項

- ・TC120/IEC62933-5-2(化学電池 ESS 安全)については、蓄電システムに関する規格であるため、技術委員会内の分科会・WG で内容を確認して対応を検討する。

◆国際電池規格委員会

- ・新しく開発されている規格が 4 件、版改訂されている規格が 3 件、進捗している。
- ・IEC63115-2(産業用 Ni-MH 安全)は、10 月の国際会議で日本から Ed2 の提案を行う見込。
- ・監視している関連規格として、IEC62933-4-4 Ed1(ESS リユース環境)、IEC62933-5-3 Ed1(ESS リユース安全)が新規開発中。また、

IEC62933-5-2 Ed2(化学電池 ESS 安全)の改訂が開始されている。

- ・ IEC62619(産業 LI 二次安全)、IEC62660-3(駆動用車載 LIB)の IS (国際規格) が発行された。
- ・ 韓国から周波数調整用蓄電システム用途の電池に関する新しい規格の提案がされた。据置 LIB 分科会で、開発の賛否、エキスパート参加について審議を行う。
- ・ 10 月末の SC21A サンフランシスコ会議は対面会議で予定されているが、日本からは対面とリモートのハイブリット会議で開催することを要望中。9 月末に参加者を判断する予定。

◆国際電池輸送委員会

(1) 第 60 回 国連危険物輸送専門家小委員会

- ・ 2025 年に発効されるモデル規則第 23 版を決める 3 回目のセッションであり、リチウム電池に関係する正式提案 WD 6 件、非公式文書 INF 12 件が提出されたが、電池業界に大きな影響を与える決定事項は無かった。
- ・ 第 61 回は 2022 年 11 月 28 日から 12 月 6 日に開催が予定されている。

(2) Li 電池ハザードベース区分 UN InformalWG

- ・ 区分方法について前回の内容から大きな変化はなし。
- ・ 小型全固体 LIB に関する概要、安全性試験、特別規定の提案を紹介。詳細議論は行わなかったが、安全性が高い小型全固体 LIB の関心と理解を示すいい機会となった。

(3) SAE G-27 WEB 会議

- ・ 試験の再現性を確認する TG から、チャンバーを構成する試験、再現性を図るための条件、制限されたセルによる試験、FAA Baseline Test が報告された。
- ・ AS6413 基準書を Li-Ion 円筒セルに絞っ

てドラフトを作成中。

- ・ AIR6840(背景情報と理論的根拠)のドラフトを更新中で、内容の投票が行われている。
- (4) リチウム金属電池およびリチウムイオン電池の輸送に関する手引書(第 11 版)の作成
- ・ UN、ICAO 等の規則内容を更新して最終版を検討中。委員会で担当を割り振り、23 年 1 月発行に向けて対応中。

<WG>

(1) 小型全固体 LIB 輸送 WG

- ・ 小型全固体 LIB の輸送規制緩和案を日本海事検定協会、航空局、自工会に事前説明してアドバイスを頂きドラフトを作成しましたが、危険物 UN 対応部会で確認が取れず、国連危険物輸送専門家小委員会に非公式提案は出来なかった。11 月の国連危険物輸送専門家小委員会では、UN 番号の新設案、特別規定による緩和案、特別規定にハザードベース区分を盛り込んだ案を検討予定。

◆普及促進委員会

- ・ 普及促進、政策提言 TF 合同で、技術開発、生産基盤、販売拡大、リユースリサイクルに分けて提言書を作成している。各社から意見を募集して、テーマ毎に主担当を決めて、内容を深掘している。
- ・ 官民協議会の実行指示を受け「定置用 LIB 普及強化 WG(仮称)」を委員会配下に設けて、当面は官民協議会の戦略実現に努める。11 月に 2022 年度 BAJ 政策提言の中間報告を予定していたが、LIB/Ni 系二次電池/鉛蓄電池の特長を網羅した形として 3 月に経産省へ説明する予定。

<法規 WG>

- ・ LIB 電解液総量規制適正化活動として、「危険物施設におけるスマート保安等に係る調査

検討会」の更なる展開に向けて、継続して提案内容を検討する。「リチウムイオン蓄電池に係る火災予防上の安全対策に関する検討会」の動向をウォッチ。6/6 に危険物保安室と提案内容に関する BAJ 側の懸念事項について意見交換実施。

- ・「蓄電池設備のリスクに応じた防火安全対策検討部会」に参画、蓄電池設備の設置に関する規制について、安全性の検証実験を予定、実施方法を検討中。蓄電システム WG とも連携して対応。参画各社が不利にならないよう十分気を付ける。
- ・急速充電器に係る消防法上の対象火気規制における扱いの見直し、急速充電に係る消防法の対象火気規制の運用の統一化など議論を行っている。

◆PL 委員会

(1)消費者庁の事故情報収集

- ・モバイルバッテリーは、2014 年から増加傾向で 2018 年 7-9 月にピークとなり、以降は 16～22 件/四半期で推移。PSE マークの対象(1 年間の猶予期間)となったことにより、件数はさらに減少すると思われるが、現時点では横ばい傾向であり今後も注視する必要がある。PSE マーク有無で区別できないか、消費者庁、NITE に確認したが公表データはないという回答。
- ・スマートフォンは、2017 年 7-9 月をピークに減少傾向である。
- ・ノートパソコンは、2019 年をピーク(50 件)に減少傾向となり、2021 年は 11 件、2022 年は 6 月末まで 0 件。
- ・電動アシスト自転車は、2016 年以降は年間 15 件程度であったが 2021 年は増加し過去最多の 27 件であった。また、2022 年 4-6 月は 4 半期毎の集計で最多となった 2021 年

7-9 月と並び 12 件であった。リコール対象品が含まれていると思われる。

- ・充電式電気掃除機は、2019 年はスティック型クリーナの事故により増加したが、2020 年以降は横ばい傾向である。非純正バッテリーパックによる火災事故、非純正 AC アダプターの使用による火災事故が散見される。
- ・ポータブル電源は、2019 年以降から増加傾向にあり、充電中の焼損事故が多い。ポータブル電源を製造・販売する国内メーカーは少なく、国内市場では海外メーカーの製品が大半を占めている模様。製品は PSE 対象外のため、PSE 不適合の電池が内蔵された製品が海外から入るリスクがある。販売数が急増しているため、引き続き発生傾向を注視していく。

◆再資源化委員会

- ・JBRC では回収できない電池の処置に関して、回収可能な電池種、回収対象(相手方)、回収方法、回収地域および回収費用などの内容で、主に BAJ 賛助会員の充電式電池回収・処理会社にアンケートを実施。12 社中 9 社から回答。
主な結果は、①ラミネート外装のままの電池、故意に取り出された電池及び損傷のある電池の回収可能な業者は存在する。②充電式電池の回収対象は、事業者、自治体であり、一般者(個人)からの回収を実施している業者はない。
一般者から排出される充電式電池は対応困難と思われ、今後、進め方を検討していく。

◆広報総合委員会

- ・イベント活動
でんちフェスタを 2023 年 3 月に開催を検討中。11 月に開催可否を見極める。
内容は、「手づくり乾電池教室」「エネルギー体

験教室」「クイズコーナー」に絞る。

・キャンペーン

「電池は正しく使いましょう！」を3部作で啓発活動として毎日新聞に記事掲載。

・PR 活動

3テーマを重点訴求

①コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止
車両啓発広告に加え、インスタグラムの育児漫画で訴求

②自動車用バッテリーの定期点検・買い替え促進

③小型二次電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起

・情報発信

①機関紙「でんち」：毎月発行

②We LOVE DENCHI /イベント用チラシ更新

◆国際環境規制総合委員会

1) 地域別環境情報

(1) 欧州

・欧州電池業界 4 団体、EU の電池規則案に関する共同提言を発表。

・欧州委員会、ELV 指令の附属書 II(適用除外リスト)の修正草案の意見公募を開始。

(2) 北米

・米メイン州、PFAS 含有製品通知要件の詳細定める規則の初期草案公表。

(3) 中南米

・ブラジル、リサイクルクレジット証書の導入に関する政令を公布。

・チリ、収集・リサイクル目標値が規定された容器の種類を指定する決議書を公布。

・ブラジル、リチウム鉱物、鉱石、派生物の輸入・輸出に伴う事前認可などの規制を撤廃

2) 活動計画

(1) 環境関連国際会議への参加

・10月18日(火)：BEBAT(ベルギー電池回収

団体)及び SORTBAT(分別工場)を訪問。

・10月19日(水)：TWG+ (終日)。

・ICBR(国際電池リサイクル会議)に参加 (Web 登録で資料入手) (9月)。

4. JBRC 報告

I. 会員状況

9月1日現在：385 法人 (前回報告時より8 法人増)

II. 回収状況 (2022 年度 1Q 実績)

①回収量：1894(t)、前年比 95.4%

②正極系リチウムイオン電池回収量推移：Co 系以外構成比 66%

③再資源化率実績：ニカド 76%、ニッケル水素 77%、リチウムイオン 53%

III. 具体的施策実施内容

(1) 排出事業者への取り組み強化

・不安全な電池の混入が11件あり、混入防止啓発チラシをパール缶に同梱して周知徹底を図る。

(2) 自治体と産廃排出協力店への啓発

・優先373自治体を抽出し、7月から電話連絡で登録働きかけを実施。併せて、野村興産(株)の廃乾電池処理スキームを紹介。

(3) 一般消費者へのリサイクル意識向上

・クイズキャンペーン、展示会、イベントへの出典を実施。

2. 再資源化業務(リサイクラー)の持続性強化

・日本磁力選鉱(株)が、廃電池自動仕分けシステムを開発・導入。

3. 管理・運営業務の盤石化

・2024年度から開始予定の有償回収について、会員通信7月号及びホームページに掲載。

・広域認定へ登録の収集運搬事業者の内、2者が欠格要件(業の許可取消)に該当していることが判明。環境省への報告が遅れたことで、再発防止策含む顛末書を提出。

4. その他

- ・リチウムイオン電池トラブル防止に関連した①元気ネット主催の検討会合(7月6日)、②環境省主催の「処理困難物適正処理対策に関する説明会」(7月21日)でプレゼン実施

IV. 2022年7月単月回収実績

- ・前年同月比 88%で回復傾向

5. その他審議事項

- 1) 定置用 LIB 普及強化 WG(仮称)新設について
→ 普及促進委員会内に WG を新設することが承認された。

6. 事務局報告

- 1) 連絡事項

PRBA、RECHARGE、KBIA の事務局メンバーと WRBRF 開催(ホスト:RECHARGE)について、以下、Web 会議と従来実施している対面会議を 2 回に分けて実施する計画を検討中。

Web 会議 : 2022 年 12 月 6 日、各団体から報告を実施

対面会議 : 日時・場所については例年欧州で行われる ICBR 会議 (2023 年 9 月開催予定) 前後で調整中

2) 2022 年度日程

第 105 回 : 2022 年 11 月 25 日 (金)

13:30~16:30 WEB 会議

第 106 回 : 2023 年 2 月 10 日 (金)

13:30~16:30 WEB 会議 or 機械振興会館

2022年度 第2回一次電池部会を開催

2022年9月14日（水）、一般社団法人電池工業会は2022年度第2回一次電池部会をWeb会議で開催した。木村部会長からBAJ競争法コンプライアンス・ルールに則り、部会進行する旨の宣言がなされた。中根事務局長からの挨拶が行われた後、各委員会代表から2022年度のこれまでの活動報告がなされた。

(1) 中根事務局長の挨拶

清水専務理事が欠席につき、代わってお話させていただきます。まず1点目は、二次電池に関する官民協議会について。

今年計6回開催されており、最後が8月31日の開催でした。これまで、BAJは個社のビジネスに関わる部分には深く関わってきませんでした。二次電池に関わる官民協議会では、国家が電池事業、特にEVに関する部分を国家戦略として底上げしていくという方針を掲げていることから、それぞれの個社の取り組みに関わる部分と国とをどのように繋げていくかという部分で苦労した。今後は、実行フェーズに移行しますが、引き続き、BAJとしてもしっかりと関わっていきたい。

2点目は、欧州電池規則について。今年の後半には、欧州電池規則が交付される予定です。二次電池のみならず一次電池にも影響が出る可能性があるため、交付された際には、内容等をよく把握しつつ、対応すべき点にはしっかり対応していきたい。

3点目は、正賛合同会議について。3年ぶりの北海道での開催、いわゆる通常モードで開催しました。開催後の参加者感染情報もなく成功裏に終わることができたこと、皆様のご協力に感謝致します。少しずつコロナがらみのところが以前の状態に戻りつつあります。今後も感染に気を付けながら正常な方向に戻していきたい。

(2) 審議事項

1) 各専門委員会の活動報告について

① ボタン電池回収推進委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 回収実績（4～8月）：協力店数微増、回収量微減。
- * 処理委託先の現場確認：野村興産（株）イトムカ鉱業所を8月5日に視察、処理の現場と帳簿の管理状況を確認した。
- * 法改正への取り組み
 - ・条約ではCOP5への対応、国内では政府検討会への参画で法改正を働き掛けていく。

② 器具委員会

下記の報告があり、承認された。

- * BAJ規格「SBA S 1601 携帯電灯」改正の進捗について電池放電時間の試験方法に関する記述を追記すること決定。

③ 資材委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 主要4材料（亜鉛・リチウム・ニッケル・コバルト）の需給・価格動向の調査結果についてリチウムは、堅調なEV需要に支えられ価格は高止まり、亜鉛・ニッケル・コバルトは、価格は一時的急騰の反発により、急騰前の水準に戻る傾向となっている。
- * JOGMECとの意見交換会について10/28(金) JOGMEC様 本部事務所で意見交換を行うことを決定。

④ 消費者委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 2022年9月6日付で経産省に報告した支援物資供給可能数の定期更新結果について 災害発生3日後の乾電池および携帯

電灯の供給可能数量は、4 月報告内容と同じ。

⑤ P L 委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 会員会社 6 社 一次電池 重要クレーム情報まとめについて 2021 年度重要クレーム件数は 79 件。前年度に対し 9%(7 件)増加したものの、注視すべき増加要因はなし。
- * NITE 速報/国民生活センター 事故情報について 8 月 26 日時点で、NITE 速報は 0 件 (2021 年度は計 3 件)、国民生活センター事故情報は計 6 件 (2021 年度は計 9 件)
- * 「一次電池安全確保のための表示に関するガイドライン」の改正検討について 23 年度改正予定の JIS C 8514「水溶液系一次電池の安全性」の改正案を確認し、その内容を反映したガイドラインの改正に 2022 年 1 月より着手予定。

⑥ 技術委員会

下記の報告があり、承認された。

1. JIS 規格原案作成

- ・ JIS C 8500 と JIS C 8515 は、改正版が 8/22 に発行された。
 - ・ JIS C 8514 第 1 回素案作成委員会 6/23 開催し、現在、第 2 回書面審議に移行済み。
- ##### 2. IEC/TC35 (一次電池) 国際規格原案対応
- ・ IEC 60086-1 第 13 版の正誤表が発行された。
 - ・ IEC 60086-2 第 14 版の正誤表が発行された。水溶液系の 60086-2-1、リチウム系 60086-2-2 に分割する Ad-hoc 会議が開催された。6/28、7/26 2 回の審議を経て規格ドラフトが承認され Ad-hoc は終了。
 - ・ IEC 60086-4 日本提案の誤飲シミュレーションに関するイギリス、スイスからのコメントについて対応を審議し、試験方法の見直し及び

CD ドラフト案の修正を実施中。

- ・ IEC 60086-5 次版改正に向け修正すべき課題の確認を行った。
 - ・ IEC62281 ED4 AMD2 の進捗確認を実施。FDIS : 2022 年 10 月、IS : 2023 年 1 月。
- #### 3. コイン形リチウム二次分科会
- ・ IEC61960-4 Ed2 の RR が 6/17 発行され、改正がスタート。日本から CD 案を作成し提出。
6/24 に回付された。今後の予定は、CDV : 2023 年 4 月、FDIS : 2024 年 3 月、IS : 2024 年 5 月

⑦ 国際環境規制総合委員会

下記の報告があり、承認された。

* 地域別動向

- ・ 欧州電池業界 4 団体、EU の電池規則案に関する共同提言を発表
- ・ 欧州委員会、ELV 指令の附属書 II (適用除外リスト) の修正草案の意見公募を開始 : 対象は合金とバッテリーへの鉛の使用
- ・ 米メイン州、PFAS 含有製品通知要件の詳細定める規則の初期草案公表
- ・ ブラジル、リサイクルクレジット証書の導入に関する政令を公布
- ・ ブラジル、リチウム鉱物、鉱石、派生物の輸入・輸出に伴う事前認可などの規制を撤廃
- ・ チリ、収集・リサイクル目標値が規定された容器の種類を指定する決議書を公布
- ・ 環境関連国際会議への参加
ICBR (国際電池リサイクル会議) : 9 月
ザルツブルク (Web 登録)
TWG+ (日欧米電池専門家会議) :
10 月 18 日~19 日 ブリュッセル
- ・ リサイクル施設の工場視察 (11 月)

⑧ 広報総合委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 活動報告・計画
- ・ イベント活動

(1) でんちフェスタ：2023 年 3 月開催を検討中。新型コロナ感染状況をみながら、11 月に開催可否を見極める。

(2) 手づくり乾電池教室は、去年に比べ若干回復傾向がみられる。

手づくり乾電池教室：23 件（2021 年度実績 17 件）

・PR 活動（3 テーマを重点訴求）

(1) コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止。

(2) 自動車用バッテリーの定期点検・買い替え促進。

(3) 小型二次電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起。

電車車両内広告、無料配布情報誌、新聞、雑誌等に啓発記事掲載

・キャンペーン

「電池は正しく使いましょう！」キャンペーン、3 テーマを 8 月に毎日新聞に掲載。

・情報発信

(1) 機関紙「でんち」：毎月発行

(2) We LOVE DENCHI：手づくり乾電池教室等にて配布。

(4) 事務局報告

1) 統計データ報告

2022 年度 1Q（4 月～6 月累計）の一次電池およびリチウム二次コインの販売数量・販売金額の実績動向について報告。

2) 委員登録

2022 年 7 月 27 日更新の一次電池部会 委員登録を紹介。

3) 次回開催日程

2022 年 12 月 14 日（水）13:30～

Microsoft Teams

以上

関西蓄電池人材育成等コンソーシアム 第1回本会合に参加

2022年10月13日(木)、一般社団法人電池工業会は、近畿経済産業局主催の関西蓄電池人材育成等コンソーシアム第1回本会合へ、一般社団法人電池サプライチェーン協議会(BASC)と共に事務局として参加した。電池工業会会員企業の電池メーカーとして、関西に生産拠点を持つ(株)GSユアサ、パナソニックエナジー(株)、プライムプラネット エナジー&ソリューションズ(株)の計3社が産業界として参加し、産業界、教育機関、自治体、支援機関を交えた形で、人材育成に対する協議を実施した。

1. 関西蓄電池人材育成等コンソーシアム設立概要

2022年8月31日、蓄電池産業戦略検討官民協議会において策定された蓄電池産業戦略(最終とりまとめ)において、2030年迄に蓄電池・材料の国内製造基盤として150GWhの製造能力を確立するべく、電池製造で計約2.2万人、材料等サプライチェーン全体で計約3万人、蓄電池に係る人材を育成確保して行く目標が掲げられた。

この実現に貢献するべく、近畿経済産業局により、蓄電池関連産業が集積している関西エリアにおいて、産業界、教育機関、自治体、支援機関等が参画する「関西蓄電池人材育成等コンソーシアム」が設立され、一般社団法人電池工業会(BAJ)および一般社団法人電池サプライチェーン協議会(BASC)は本コンソーシアムの事務局として、人材育成等に向けた取組を推進する事となった。

<8月31日(水) 当コンソーシアム発足式>



*右から BAJ 村尾会長、近畿経済産業局 伊吹局長、
BASC 只信会長(兼 BAJ 副会長)

2. 関西人材育成等コンソーシアム 第1回本会合

経済産業省 商務情報政策局 門松審議官より開会挨拶後、議事に併せて各位発表後、意見交換が行われた。

・日時：2022年10月13日(木) 10:00～

・場所：TKP 心斎橋駅前カンファレンスセンター

※ 対面/Microsoft Teamsによるオンライン併用
<議事>

- ① 蓄電池産業戦略 最終とりまとめ
(経済産業省 商務情報政策局 情報産業課電池産業室)
- ② 関西蓄電池人材育成等コンソーシアム取組方針
(近畿経済産業局 地域経済部 次世代産業・情報政策課)
- ③ 蓄電池に係る人材ニーズ(必要な人材像・スキル)
(BAJ/BASC)
- ④ 産総研や LIBTEC の人材育成に係る取組と
今後の方向性について(産総研/ LIBTEC)

今年度内に、計3回のコンソーシアム会合/計3回のワーキングを開催し、我が国の競争力を強化するために必要な人材像を整理の上、産学官の各々が講じるべき取組の方向性をとりまとめた報告書を公表する予定。

最後に、近畿経済産業局 伊吹局長の挨拶をもって閉会となった。

2022年9月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
議特、別他会	2日(金)	正賛合同会議(札幌)	
	16日(金)	広報総合委員会	電池は正しく使いましょうキャンペーン応募数、抽選方法確認、フェスタ開催検討他
	27日(火)	蓄電池設備整備資格者講習実施委員会	大阪府会場の修了考査審議
二次電池部会	2日(金)	自動車鉛分科会	分科会資料定期レビュー
	9日(金)	資材委員会	共有金型更新審議
	9日(金)	充電器分科会	JISC4402他の改正、建築設計基準の改正に関する審議
	9日(金)	据置アルカリ電池分科会	標準化情報共有化
	13日(火)	技術サービス分科会	TS-004改定審議
	14日(水)	環境委員会	国内外鉛蓄電池関連環境法情報の収集と対応検討
	15日(木)	産電技術サービス分科会	蓄電池設備の点検・整備・工事の安全に関するリーフレット作成
	15日(木)	用語分科会	SBA規格票の作成指針 改正審議 他
	16日(金)	技術委員会	所属分科会の22年上期活動状況報告及び22年度下期活動計画報告
	20日(火)	産電リサイクル委員会、広域認定分科会	広域認定申請状況確認、新規申請方法審議他
	22日(木)	PL委員会	有毒ガス市場啓発審議
29日(木)	据置鉛分科会	SBA規格改正案審議	
二次電池第2部会	1日(木)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	6日(火)	PSE WG	技術基準解釈改正(別表第九廃止)への対応についての審議
	7日(水)	蓄電システムWG	建築設備計画基準/設計基準改訂検討
	9日(金)	二次電池第2部会	各委員会からの報告および審議
	12日(月)	リチウム二次分科会	JIS C 62133-2 改正案審議。 JIS C 62122-2 誤記訂正対応
	13日(火)	再資源化委員会	蓄電池再資源化に関する対応
	13日(火)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	14日(水)	据置LIB分科会	JIS C 8715-2改正原案作成分科会
	16日(金)	国際電池規格委員会	IEC規格 ANSI規格等の審議 対応
	21日(水)	普及促進委員会	蓄電池システムの普及促進検討
	21日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池システムの普及強化に向けた戦略実現検討
	22日(木)	リユース規格分科会-リユース・リサイクルTF 合同会議	リユース規格に関する審議
	22日(木)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	26日(月)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	27日(火)	LIB安全性技術WG	内部短絡試験に関する技術検討
	28日(水)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	29日(木)	非駆動用車載LIB分科会	非駆動用LIBのIEC規格策定
29日(木)	ニカドニッケル水素分科会	ニカド・ニッケル水素電池 性能規格の改訂審議	
一次電池部会	1日(木)	技術委員会	国際幹事、JIS改正、IEC関連、コイン形リチウム二次分科会関連報告
	9日(金)	臨時規格委員会	IEC60086-4 誤飲シミュレーション試験内容審議
	2日(金)	ボタン電池回収推進委員会	回収状況報告、COP5対応協議
	14日(水)	一次電池部会	各委員会からの報告および審議
	20日(火)	臨時規格委員会	IEC60086-4 誤飲シミュレーション試験内容審議

7 月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2022年 7月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

2022年1月より経済産業省の機械統計は「その他のアルカリマンガン乾電池」は「アルカリ乾電池計」に統合されました。

2022年7月より経済産業省の機械統計は「アルカリ蓄電池(ニッケル・水素電池)」「その他のアルカリ蓄電池」は「アルカリ蓄電池計」に統合されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	368,214	94,836	91%	100%	2,570,265	650,296	96%	104%
一次電池計	263,684	9,736	101%	103%	1,650,696	59,249	100%	104%
酸化銀電池	77,797	1,756	111%	121%	442,127	9,743	107%	123%
アルカリ乾電池計	111,612	4,665	101%	101%	689,035	26,341	97%	99%
単 三	-	-	-	-	-	-	-	-
単 四	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウム電池	74,275	3,315	93%	97%	519,534	23,165	98%	104%
二次電池計	104,530	85,100	72%	100%	919,569	591,047	89%	104%
鉛電池計	2,279	15,210	94%	102%	16,230	107,533	93%	100%
自動車用	1,728	10,108	95%	105%	12,373	71,064	94%	103%
その他の鉛蓄電池	551	5,102	92%	97%	3,857	36,469	92%	96%
アルカリ蓄電池計	40,007	23,196	86%	104%	265,518	140,440	88%	106%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
その他のアルカリ蓄電池	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン蓄電池計	62,244	46,694	65%	97%	637,821	343,074	89%	104%
車載用	42,714	36,808	67%	105%	453,801	263,791	92%	107%
その他	19,530	9,886	61%	78%	184,020	79,283	82%	95%

7 月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2022年 7月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	198,362	59,262	79%	104%	1,508,670	412,474	97%	111%
一次電池計	119,586	3,468	95%	103%	803,713	22,933	104%	98%
マンガン	21	1	-	-	1,278	38	-	-
アルカリ	8,839	191	41%	60%	93,143	1,647	92%	110%
酸化銀	61,383	1,408	119%	151%	351,690	7,091	107%	131%
リチウム	49,343	1,785	94%	102%	357,600	12,690	104%	103%
空気亜鉛	0	0	-	-	0	0	0%	0%
その他の一次	0	83	187%	23%	2	1,467	65%	35%
二次電池計	78,776	55,794	63%	104%	704,957	389,541	90%	112%
鉛蓄電池	140	1,104	91%	99%	1,063	7,950	98%	104%
ニカド	714	146	144%	184%	2,287	566	62%	74%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	0	0%	0%
ニッケル水素	11,634	11,796	85%	121%	87,054	75,069	85%	124%
リチウムイオン	55,733	28,145	58%	85%	541,866	221,823	91%	105%
その他の二次	10,555	14,604	66%	151%	72,687	84,133	88%	127%
全電池合計（輸 入）	168,316	38,261	129%	176%	1,002,771	219,796	118%	149%
一次電池計	159,678	2,815	129%	150%	944,249	15,988	119%	130%
マンガン	7,460	113	60%	95%	67,659	937	86%	116%
アルカリボタン	2,259	24	83%	128%	18,886	179	139%	186%
アルカリその他	135,330	1,931	143%	155%	742,822	9,958	126%	138%
酸化銀	113	6	56%	113%	1,331	51	100%	103%
リチウム	10,174	653	94%	162%	81,398	3,897	111%	120%
空気亜鉛	4,339	78	147%	117%	32,129	712	88%	107%
その他の一次	4	10	159%	54%	24	254	105%	167%
二次電池計	8,637	35,446	118%	179%	58,522	203,808	108%	151%
鉛蓄電池	764	4,251	98%	112%	5,576	29,363	101%	109%
ニカド	58	226	99%	70%	464	1,107	110%	80%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	0	0%	0%
ニッケル水素	2,580	448	137%	99%	15,026	3,247	108%	118%
リチウムイオン	5,205	27,806	115%	199%	37,151	153,288	109%	160%
その他の二次	31	2,715	89%	214%	304	16,801	117%	196%